

令和8年度の学校評価

本年度の 重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全体を通して、生徒の自己肯定感や自己有用感を高める。 ・生徒に学力の基礎・基本を習得させるとともに、主体的に学ぶ姿勢を育む。 ・キャリア教育の理念に立ち、生徒一人ひとりの進路実現に向け支援体制の充実を図る。 ・円滑な教育活動が推進できるよう、教職員の健康維持に配慮した体制を維持する。 		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
広報活動 （総務部）	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略的な広報活動を展開する。 ・PTA活動を見直し、参加しやすい雰囲気作りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生やその保護者の関心を高める学校案内を作成する。 ・学校説明会の内容を再考し、中学生・保護者の関心を引くものを積極的に取り入れる。 ・PTA活動について、内容を精選し、持続可能なPTA活動になるように工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内は、管理職と担当者等と報告・連絡・相談を行いながら作成する。また、写真の更新を行う。 ・学校案内と学校説明会を充実させ、HPも活用して、戦略的な広報活動を展開できるようにする。 ・PTA主催の活動を学校としてサポートする。例年通り行うのではなく、御意見を伺いながら運営していく。
授業の活性化 （教務部）	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習との両輪を踏まえた生徒主体の授業を目指し、ICT活用も含めた授業改善。 ・アントレプレナーシップの手法を用いた「総合的な探究の時間」の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業や研究授業の実施を推進するとともに、教科主任会で各科の取り組みを情報交換しながら授業改善に活かしていく。 ・外部資源も活用し、生徒が自己理解を深めることを通じて、自ら問いを見つけ、探究する活動を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価のための課題ではなく、授業を受講するために必要な家庭学習であることを認識させ、生徒が主体的に取り組める授業改善となるよう留意する。 ・外部講師の助言や外部の研修などを通して様々な優れた手法を積極的に取り入れる。
キャリア教育の推進 （進路指導部）	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集と情報の整理（全学年） ・進路希望を叶える（3年） ・進路意識の醸成（1・2年） 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス等の案内やLT、総合的な探究の時間を活用する。 ・進路講演会や進路別ガイダンスを通して情報を提供し、整理する。 ・模擬試験や学年と連携した特別講座等で実力を高める。 ・模擬試験の分析報告を学年集会で実施する。 ・学年集会等で進路講話を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・LT、総合的な探究の時間を学年と相談しつつ計画的に活用する。 ・担任会、学年会、教科会、進路検討会等を活用し、教員間でも情報の整理や、情報交換を積極的に行う。 ・特別講座では積極的に成績上位層を伸ばしていく。
交通安全 （生徒指導部）	<ul style="list-style-type: none"> ・道交法が改正されたことを踏まえて交通ルール、マナーに対する意識を高め、交通事故防止を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間には余裕を持って行動できるよう集会等で伝える。 ・自転車利用五則を周知徹底させる。 ・ポスターを作成するなど安全委員の活動を通して生徒自身の安全に対する意識を高めさせる。 ・交通安全教室を通して、交通ルールの重要性や命の大切さを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間ギリギリで登校する生徒には積極的に声掛けをしていく。 ・配布資料を活用する。 ・ポスターは、昇降口など目に付きやすい場所に掲示する。 ・安全委員の役割をしっかりと理解させて活動させる。 ・道交法が改正されたポイントを資料を用いて解説する。
特別支援と美化活動 （保健部）	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする生徒について、早期発見と支援を図る。 ・校内美化活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康調査結果から把握した健康課題に関して早期対応をする。 ・学年会・学年主任者会等で各学年の問題のある生徒について情報交換を図る。 ・相談担当の教員、担任、SCと情報交換し連携を図る。 ・校内で処理するごみの減量と分別・再利用を進め、環境美化の意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早期に健康注意者リストを作成し関係する職員と情報共有する。 ・SCへの相談内容や生徒の状況を関係職員に連絡し、必要に応じて個別の支援対策会議を実施する。 ・特別活動部と連携し、ダンボールなどリサイクル可能なものは一時保管し、学校祭などで活用してもらう。 ・年に数回、美化委員を使って、一斉清掃の範囲外の場所の美化活動を行う。
学校行事 （特別活動部）	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体となって学校行事を企画・運営する。 ・世代交代を意識した生徒会の自主化 ・部活の練習時間において、量から質への転換を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意見を聞きつつ、互いに助け合って盛り上がるよう考案する。 ・生徒の役割分担を明確にする。 ・部活動の時間を制限しつつ、必要物品の拡充を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育的行事は、昨年度の変更事項を加味して、実施方法を工夫したりする。 ・文化的行事は、クラスで協力できるような企画になるように支援する。 ・生徒会の運営については、手助けし過ぎないように意識する。 ・業後に巡回を行い、部顧問との連携を積極的にとっていく。

項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
読書活動 （図書情報部）	<ul style="list-style-type: none"> ・読書啓発（朝読の充実） ・学習活動・課外活動における図書館利用の活性化（調べ学習等） ・校務及び授業におけるICTならびにAIの利活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用者と貸出冊数の増加を目指すし、生徒を図書館へ呼び込む工夫をする。 ・情報通信技術支援員の協力を仰ぎ、「教職員向け研修」を充実させ、教職員全体のICT・AI活用スキルの底上げを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節のイベントを精選し、常設展示を工夫するなど、魅力ある図書館になるよう図書委員と協働して充実する。 ・自習室の活用推進、授業での調べ学習などの図書館利用方法を支援する。 ・職員研修では支援員と協働し、ICTやAI活用を推進する。
基本的生活習慣の確立 （第1学年）	<ul style="list-style-type: none"> ・豊高生として必要な基本的生活習慣を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「朝読」指導を始めとして、授業規律の遵守や身の回りの整理整頓など落ち着いて学習に向かう環境を作る。 ・探究活動を通して、たくさんの「わかる」「できる」「面白い」の体験を積み、自身の将来につながるようなキャリア教育の基礎を作る。 ・行事への積極的な参加を促し、学校生活の楽しさを実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動を送る上で必要な、基本的なルールやマナーを守らせる。 ・課題の指示を的確に行い、自宅学習の習慣化を図る。 ・文理選択が適切に行えるように、進路意識を醸成する。 ・学年全体として、行事に積極的に取り組める環境を作る。
中心学年としての役割を果たす （第2学年）	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの進路意識を高め、進路目標を具体化する。 ・行事等において中心学年としての役割を果たす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動や外部機関講話実施を通して、適切な時期に必要な進路情報が得られるよう、生徒に情報の提供と、各自での収集の方法を示す。 ・行事におけるリーダーを育成し学年のけん引力とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を実践するにあたり、視野を広げた選択を意識させるため、オープンキャンパスや進路ガイダンスなど外部の情報も活用させる。 ・修学旅行の事前学習や探究活動に取り組みせる際、生徒により適切な声かけができるように、教員間での目線合わせをする。
進路指導 （第3学年）	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に向けて将来を具体的にイメージしながら進路を選択させる。 ・希望の進路を達成するための学習環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な個人面談を行い、進路の不一致が起らないよう適性や希望を把握する。 ・主体的な進路選択に向けて進路ガイダンス等を実施し、適切な時期に必要な進路情報を提供できるようにする。 ・特別講座、模擬試験の重要性を理解させ、積極的に参加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間の活動を通して、社会問題へ興味関心をもたせ、2年次より具体的な解決策や考えをもたせる。 ・生徒の進路先についての情報を収集し、進路先の不一致が起らないよう、合同LTや面談を利用して生徒に声掛けをする機会を増やす。 ・多様な入試形態に対応できるように、進路指導部と連携を図る。
いじめ防止対策の推進 （いじめ不登校対策委員会）	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止に係る取組を充実させる。 ・いじめの早期発見、適切な事案の対処に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集会等で、生徒が主体となっていじめの防止に努められるよう話をする。 ・いじめの情報収集、事案対処に係る学校いじめ防止対策組織の役割を具体化し、教職員間で共有するとともに、生徒や保護者にも周知する。 ・いじめアンケートを適切に実施する方法や、その後の対処の在り方について検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がいじめ問題をはじめ、人権についても主体的に考え、自身にも関わる問題と捉えられるようにする。 ・学校いじめ防止対策組織の役割を生徒や保護者に周知することで、生徒が安心して学校生活を送ることができる環境づくりを行う。 ・生徒のなりすましの防止方法、その後の組織的な対応の在り方について検討する。 ・職員自らも生徒の観察に注力する。
勤務管理の適正化	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の適正化及び平準化を図り、教職員の健康に配慮した体制の維持に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善のアイデアを出し合い、各分掌で検討し、可能なものから実施する。 ・在校時間等の状況記録の集計結果を確認し、1か月間の時間外労働が45時間を超える教職員に対して面接をとおして改善を促す。 ・計画的な休暇取得を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善について情報収集を行い、できるだけ速やかに実施できるよう努める。 ・教職員の年次休暇の計画的な使用を促進するための環境整備に努め、年5日以上の年次休暇が確実に取得できるように配慮する。 ・時間外勤務の教職員に、勤務時間の割振り変更を促す。

学校関係者評価を実施する主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ I C T活用等による、生徒が主体的に取り組むための授業改善 ・ 基本的生活習慣の確立と通学マナーの向上 ・ 地域に根差した学校にするための具体的取組
--------------------	---

令和7年度の学校評価

ア 自己評価結果等

本年度の 重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育活動全体を通して、生徒の自己肯定感や自己有用感を高める。 ・ 生徒に学力の基礎・基本を習得させるとともに、主体的に学ぶ姿勢を育む。 ・ キャリア教育の理念に立ち、生徒一人ひとりの進路実現に向け支援体制の充実を図る。 ・ 円滑な教育活動が推進できるよう、教職員の健康維持に配慮した体制を維持する。 		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
広報活動 (総務部)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戦略的な広報活動を展開する。 ・ P T A活動を見直し、参加しやすい雰囲気作りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生やその保護者の関心を高める学校案内を作成する。 ・ 学校説明会・体験入部の実施などにより、本校進学を志す中学生向けの広報活動を推進する。 ・ P T A活動について、保護者の意見を取り入れ、無理の無い活動になるように配慮し、持続可能なP T A活動になるように工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校案内は、写真の入れ替えを積極的に行ったが、その過程での確認不足があった。生徒の写真を使用する場合は学年にも十分に確認する。 ・ 今年は第1回学校説明会の日程が周辺校と同日となった。時期の変更を考える必要がある。 ・ P T A活動に無理なく積極的に参加していただいている。今後もコミュニケーションを大切にしなが、活動を継続していく中で、活動や仕事をさらに精選していく。
授業の活性化 (教務部)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒主体の授業実践を目指し、ICT活用も含めた授業改善に取り組む。 ・ 3年間を見通した指導計画に基づいて「総合的な探究の時間」を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開授業や研究授業の実施を推進し、授業改善に取り組む雰囲気を醸成する。 ・ (前略) 外部資源も活用しながら、生徒が自ら問いを見つけ探究する活動を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員間の授業参観が昨年度よりも少なかった。より活発にされるよう、後期実施期間に啓発を行う予定。 ・ 探究活動の教材を外部に求めながら、本校の生徒の実情にあった授業を実施することができた。
キャリア教育の推進 (進路指導部)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報収集と情報の整理（全学年） ・ 進路希望を叶える（3年） ・ 進路意識の醸成（1・2年） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ オープンキャンパス等の案内やL T、総合的な探究の時間を活用する。 ・ 進路講演会や進路別ガイダンス等で情報を提供したり、整理したりする。 ・ 模擬試験や学年と連携した特別講座等で実力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学期から夏休み中にかけて情報収集を実施できた。 ・ 3年生は自身の進路希望を叶えるため、自ら動くことができていた。ただ、学力型の公募推薦についてはしっかりと考えさせたい。 ・ 1，2年生ともに模試を生徒にフィードバックをし、受けて終わりにならないようにできた。 ・ 特別講座は例年通りの人数が受講した。本校は学年が上がるにつれて二極化が目立ってくる。上位層はこういった機会にさらに伸ばしていきたい。
交通安全 (生徒指導部)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間や交通ルール、マナーに対する意識を高め、交通事故防止を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間には余裕を持って行動できるよう集会等で伝える。 ・ 自転車利用五則を周知徹底させる。 ・ 安全委員の活動を通して安全に対する意識を高めさせる。 ・ 交通安全教室を通して、交通ルールの重要性や命の大切さを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学期の遅刻数は、大変多かったのですが、策を講じて減らしていきたい。 ・ これまでに交通安全に関して資料の活用、安全委員による交通安全調査、交通安全教室などを実施した。校外で登下校の様子を見て、一部分ではあるが、交通ルールをしっかりと守っている様子が以前よりは見られて、意識を高めるのに効果があったのではないかなと思われる。

特別支援 (保健部)	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする生徒について、早期発見と支援を図る。 ・校内美化活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康調査結果から把握した健康課題に関して早期対応をする。 ・学年会・学年主任者会等で各学年の問題のある生徒について情報交換を図る。 ・相談担当の教員、担任、ＳＣと情報交換し連携を図る。 ・校内で処理するごみの減量を進め、環境美化の意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早期に健康注意者リストを作成し関係する職員と情報共有することができた。 ・ＳＣへの相談内容や状況を関係職員に連絡し、情報共有を図り、必要な対応を実施することを実施した。 ・ごみの分別や持ち帰りが不十分なので、啓発を促していきたい。 ・美化委員による、通常清掃以外の清掃活動はまだやれていない。
学校行事 (特別活動部)	<ul style="list-style-type: none"> ・健康や安全に十分に配慮した、生徒が主体となって行える生徒会行事を企画する。 ・部活動時間を厳守させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育的行事は生徒の現状に合わせた内容になるよう考案する。 ・細部まで配慮した丁寧な文化祭の要項を作成する。 ・生徒会行事は、生徒が自らの手で作り上げていくことを理解させる。 ・生徒の役割分担を明確にする。 ・部活動の活動場所を巡回する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体で体育祭の種目を一から作らせ、実施させることで、生徒会の生徒には多くのことを学ばせることができた。 ・文化祭では役割分担を明確にすることで、学校行事について責任感をもたせることができた。 ・時間については、厳守させることができていない。
読書活動 (図書情報部)	<ul style="list-style-type: none"> ・読書啓発（朝読の充実） ・学習活動・課外活動における図書館利用の活性化（調べ学習等） ・校務及び授業におけるＩＣＴの利活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の図書館利用を促進し、朝読のより一層の充実を図る。 ・公立図書館の団体貸出を利用した教科活動や総合的な探究の時間の利用を促進する。 ・情報機器の整備と充実化を図ると同時に、職員ＩＣＴ研修などのＩＣＴ啓発活動も引き続き行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会を中心に季節の図書館イベントや、文化祭でのビブリオバトルを開催し、生徒の読書活動の活性化に努めた。 ・情報通信技術支援員の支援を受け、生成ＡＩに関する職員ＩＣＴ研修会を複数回実施し、授業活用や校務効率化に努めた。
基本的生活習慣の確立 (第１学年)	<ul style="list-style-type: none"> ・豊高生として必要な基本的生活習慣を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「朝読」指導を始めとして、授業規律の遵守や身の回りの整理整頓など落ち着いて学習に向かう環境を作る。 ・探究活動を通して、たくさんの「わかる」「できる」「面白い」の体験を積み、自身の将来につながるようなキャリア教育の基礎を作る。 ・行事への積極的な参加を促し、学校生活の楽しさを実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻は少なく、１限から落ち着いた学習環境で授業を受けることができています。 ・探究活動では、調べ学習に終止しないよう、探究の導入や基礎固めに時間を要した。個人探究に向けて、まずはグループ探究で基本的な知識や技術を学んでほしい。 ・学年全体として、行事に積極的に取り組める環境を作るために、生徒の主体性を伸長するような働きかけや声掛けを行った。
中心学年としての役割を果たす (第２学年)	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの進路意識を高め、進路目標を具体化する。 ・行事等において中心学年としての役割を果たす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な時期に必要な進路情報が得られるよう、生徒に情報収集の方法を示す。 ・探究活動を通して、１年次よりも進路や探究の価値を見出せるようにする。 ・行事におけるリーダーを育成し学年のけん引力とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を実践するにあたり、視野を広げた選択を意識させるため、全国の大学を調べた。夏休みにオープンキャンパスへ行き、進路に向けた意識ができるようになった。 ・総合探究では１年次より進路に結び付く内容になるよう声掛けをしていく。 ・修学旅行の事前学習では現地の方の講和で、平和学習を中心に沖縄について深めていく。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
進路指導 (第3学年)	<ul style="list-style-type: none"> ・自らが求める生き方を具体的にイメージさせ、その実現のために必要な進路を選択させる。 ・希望の進路を達成するための学習環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な個人面談を行い、一人一人の適性や希望を把握する。 ・主体的な進路選択に向けて進路ガイダンス等を実施し、適切な時期に必要な進路情報を提供できるようにする。 ・特別講座、模擬試験の重要性を理解させ、積極的に参加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路先についての情報を収集し、合同 IT や面談を利用して生徒や保護者に的確に伝えた。概ねの生徒が進路目標を定めることができた。 ・多様な入試形態に対応できるように、進路指導部と連携を図り、担任会や学年会、朝礼などで密に連携をとった。個人で行う共通テストWEB出願も滞りなく実施できた。 ・書類の不備や期日を守る意識、言葉遣い、書類に誤字脱字等がないよう注意深く声をかけた。学年全体として進路意識を今後も高めていきたい。
いじめ防止対策の推進 (いじめ不登校対策委員会)	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止に係る取組を充実させる。 ・いじめの早期発見、適切な事案の対処に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集会等で、生徒が主体となっていじめの防止に努められるよう話をする。 ・いじめの情報収集、事案対処に係る学校いじめ防止対策組織の役割を具体化し、教職員間で共有するとともに、生徒や保護者にも周知する。 ・いじめアンケートの実施方法や、その後の対処の在り方について検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回いじめアンケートを6月に実施した。今回は、気軽に思っていることを書きやすく工夫した。おかげで、大変多くの書き込みがあり、様々なことが分かった。しかし、無記名式なため、なかなか対応が難しいことが多かった。次回は、記名式でどうなるか試していきたい。
勤務管理の適正化	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の適正化及び平準化を図り、教職員の健康に配慮した体制の維持に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級減に伴う教員定数の減少に合わせ、校務分掌の整理統合を図る。 ・業務改善のアイデアを整理し、可能なものから実施する。 ・在校時間等の状況記録の集計結果等を衛生委員会で確認し、1か月間の時間外労働が80時間を超える教職員に対して、その都度面接指導の希望の有無について確認を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生委員会での意見交換を経たのち、勤務時間外が前提の活動について来年度実施するか否かの検討を促している。 ・在校時間等の状況記録を毎回確認し、面接の有無についても面接指導の希望について確認している。2学期から遅くとも19時半には退勤の声掛けをし、退勤を促している。